

静岡県における障害者が利用できるスポーツ関連施設に関する 基礎的研究（第1報）

— スポーツ関連施設における障害者の受け入れ状況 —

石塚 和重 和久田佳代

聖隷クリストファー大学

Fundamental Research on the Sport Related Institution which Disabled Persons in Shizuoka Prefecture Can Use (1) — A Disabled Person's Acceptance Situation in a Sport Related Institution —

Kazushige ISHIZUKA, Kayo WAKUDA

Seirei Christopher College

研究要旨

障害者の健康管理を目的として、静岡県内にあるスポーツ関連施設356施設に対して、障害者の受け入れ状況をアンケートにて調査した。回答が得られたスポーツ関連施設数は177施設（49.7%）であった。アンケート調査の結果、障害者が利用できるスポーツ内容は1. 水泳44施設（40.0%）2. 筋力トレーニング32施設（28.3%）3. テニス24施設（21.8%）4. エアロビクス19施設（17.3%）5. 卓球19施設（17.3%）の順である。障害者の受け入れ状況においては、精神障害者と視覚障害者の受け入れに困難性が指摘された。施設の設備面では、車椅子対応の設備としてスロープ・段差及び車椅子でできるスポーツ器具の不足が問題となり、今後これらの問題の解決が重要なポイントになる。また、障害者がリハビリテーション施設として利用できる施設数は85施設（47.5%）であり、将来的にはリハビリテーション施設としての可能性が示唆された。

キーワード：障害者、健康管理、スポーツ関連施設、リハビリテーション、静岡県

I. はじめに

静岡県は障害者スポーツセンターが設置されていない県である。障害者スポーツセンターはスポーツを通して、障害者の健康の維持・増進に大きな役割を果たしている。スポーツセンターが設置されていない静岡県においては、障害者が健康で社会的な生活を営むためには地域との連携が大切になってくると考える。障害者の健康管理や障害者のスポーツの振興・普及のためにも地域のスポーツ関連施設との連携が重要になるだろう。また、リハビリテーションは病院だけではなく、障害者自身の健康を維持するためにも、地域のスポーツ関連施設がリハビリテーションの場として活用できることは障害者の健康を守るためにも重要であると考えている。

本研究は静岡県内のスポーツ関連施設における障害者の受け入れ状況の実態を把握し、将来への見通しを検討するとともに、今後の障害者の健康維持・増進を目的としたスポーツ関連施設のあり方やリハビリテーションの場としてのスポーツ関連施設について検討し、障害者の健康増進について考えてみる。

II. 対象と方法

静岡県内にあるスポーツ関連施設 356 施設に対して、障害者の受け入れ状況をアンケートにて調査した。アンケート調査機関は平成 14 年 9 月 15 日～10 月 15 日であった。

アンケート内容 (資料 1 参照)

1. 施設で実施している内容
2. 障害者の利用状況
3. 利用してきた障害者の障害内容
4. 現在の障害者が利用できるスポーツ施設と

障害内容

5. 将来的に利用可能なスポーツ関連施設

III. 結果と考察

回答が得られたスポーツ関連施設数は 177 施設 (49.7%) であった。施設で実施している内容は 1. 水泳 75 施設 (42.4%) 2. 筋力トレーニング 66 施設 (37.2%) 3. エアロビクス 59 施設 (37.2%)、テニス 48 施設 卓球 34 施設、サッカー 28 施設、武術 20 施設である。障害者が過去、利用してきたスポーツ関連施設数は 113 施設 (68.3%) であった。過去、障害者が利用した施設における障害の内容は、肢体不自由で車椅子不使用者 92 施設 (81.4%)、知的障害者 65 施設 (57.5%)、聴覚障害者 64 施設 (56.6%)、肢体不自由で車椅子使用者 62 施設 (54.9%)、視覚障害者 35 施設 (31.0%)、精神障害者 32 施設 (28.3%) になっている。現在利用できる施設は肢体不自由で車椅子不使用者 94 施設 (85.5%)、聴覚障害者 84 施設 (76.4%)、知的障害者 75 施設 (68.2%)、肢体不自由で車椅子使用者 66 施設 (60.0%)、精神障害者 53 施設 (48.2%)、視覚障害者 45 施設 (40.9%) である。このことは、精神障害者や視覚障害者の受け入れ状況の悪さを示唆した結果となっている。

障害者が利用できるスポーツ内容は 1. 水泳 44 施設 (40.0%) 2. 筋力トレーニング 32 施設 (28.3%) 3. テニス 24 施設 (21.8%) 4. エアロビクス 19 施設 (17.3%) 5. 卓球 19 施設 (17.3%) 6. バスケットボール 17 施設 (15.5%) 7. バレーボール 14 施設 (12.7%) 8. ダンス 13 施設 (8.5%) 9. 武術 10 施設 (9.1%) 10. サッカー 8 施設

(7.2%)であった。その他 陸上競技6・マリンスポーツ6・乗馬5・アーチェリー3・ボウリング3・自転車2・ボクシング1があげられる。

現在、障害を持っている方の利用可能なスポーツ関連施設は、はい110施設(62.1%)いいえ67施設(37.9%)である。将来において、障害を持っている方の利用可能な施設については、はい126施設(71.2%)いいえ27施設(15.4%)検討中27施設(15.4%)である。近い将来、障害者がスポーツ関連施設を利用できる可能性が現時点より増加していることは、障害者にとってわずかではあるが明るい兆しが見えてきていると考えたい。

施設の設備について、とくに車椅子対応の面から検討してみると、アンケート調査の結果では1. 玄関が車椅子に対応できる程度広い：はい107施設(60.4%)いいえ58施設(32.7%)無回答12(16.9%)2. 廊下の幅が広い：はい84施設(47.5%)いいえ78施設(44.1%)無回答15施設(8.4%)3. 戸やドア幅が広い：はい66施設(37.3%)いいえ96施設(54.3%)無回答15施設(8.4%)4. 玄関にスロープが設置されている：はい66施設(37.3%)いいえ96施設(54.5%)無回答13施設(8.2%)5. トイレなど段差が解消されている：はい68施設(38.4%)いいえ95施設(53.7%)無回答14施設(7.9%)6. トイレを車椅子で利用できる：はい61施設(34.5%)いいえ102施設(57.6%)無回答14施設(7.9%)7. 車椅子障害者が利用できるスポーツ器具の設置は十分か：はい10施設(5.7%)いいえ153施設(86.4%)無回答14施設(7.9%)である。車椅子対応の設備の点ではスロープや段差の問題がクローズアップされている。また、

スポーツ器具の面での問題が認められ、車椅子でもできるスポーツ器具の不足が指摘されている。現在、車椅子でも利用できる筋力強化器具が開発されている点を考えると、スポーツ関連施設側が車椅子でも対応していこうとする意識と受け入れが大きな問題であると考えられる。

最後に、現在65歳以上の老人がスポーツ関連施設を利用している施設数は138施設(80%)であった。また、将来において、障害者がリハビリテーション施設として利用85施設(47.5%)であり、スポーツ関連施設がリハビリテーション施設として利用できる可能性が示唆された。資料2のFig1～4は静岡県内の某スポーツ施設について紹介している。

IV. まとめ

- ①. 将来、静岡県内で障害者が利用できる施設が153施設(86.4%)の回答を得られた。
- ②. 障害者の受け入れ状況において精神障害者と視覚障害者の受け入れに困難性が示唆された。
- ③. 障害者が利用できるスポーツは水泳、筋力トレーニング、テニス、エアロビクス、卓球の順であった。
- ④. 車椅子対応の設備としてスロープ・段差の解消及び車椅子でできるスポーツ器具の開発が重要である。
- ⑤. 将来、障害者の健康管理と障害者のスポーツ振興のためにも地域統合型のスポーツ施設を望む。
- ⑥. 障害者の健康管理と障害者のリハビリテーションにおいて、将来構想として施設利用の可能性が示唆された。
- ⑦. リハビリテーション領域でスポーツ施設が運営されていくには、医療との連携を図り、

リハビリテーションを指導する理学療法士、健康運動指導士、障害者スポーツ指導員などの指導者の設置も大切であると考える。

V. おわりに

第3回全国障害者スポーツ大会で静岡県選手団の主将で視覚障害者のM・Iさんは解団式の挨拶の中で「視覚障害者である私は練習のためにスポーツクラブでの練習を希望しました。はじめは断られたが、話し合いの末、スポーツクラブの利用が許可されました。ただし、条件があり、シャワー、バスなどは使用してはいけないというものでした。」この言葉は、現在の障害者を取り巻くスポーツ環境そのものを表現しているだろう。今回の調査では、障害者を受け入れるスポーツ関連施設は、回答を得られた施設からみたら84.6%であるが、未回収の施設を加えると42.9%になる。公営スポーツ施設での利用は、全施設においてほぼ可能であるが、私営の施設では受け入れ状況が悪い印象がある。今回の報告ではその点まで深めることは出来なかったが、今後の課題としたい。いずれにしても、以前に比べて、スポーツ関連施設の受け入れ状況は良くなっているが、まだまだ茨の道が今後も続くかもしれない。

（資料1）

- ① 貴施設ではどんなスポーツ活動として利用されているのかお伺いします。該当する項目に○をつけて下さい。（いくつでも構いません）
- 1.水泳 2.陸上競技 3.卓球 4.バレー 5.乗馬 6.射撃 7.バスケット 8.ボウリング
 9.サッカー 10.アーチェリー 11.ボクシング 12.ダンス 13.エアロビクス 14.テニス
 15.武術 16.自転車 17.筋力トレーニング 18.スキー 19.マリンスポーツ
 20.その他（ ）
- ② 貴施設では障害を持っている方が既に施設を利用されていますか？
- 1.はい 2.いいえ
- ③ ②ではいと答えた施設の方にお伺いします。どんな障害を待った方でしょうか？
 該当する障害に○をつけて下さい。（いくつでも構いません）
- a.身体に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
 （車椅子を使用されていない方）
- b.車椅子を使用されている方（1.はい 2.いいえ）
- c.視覚に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- d.聴覚に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- e.知的に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- f.精神に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- g.その他（ ）
- ④ 貴施設では障害を持っている方のスポーツ施設の利用は可能ですか？
- 1.はい 2.いいえ
- ⑤ ④ではいと答えた施設ではどんな障害のある方ならば利用できるのかお伺いします。
 該当する障害に○をつけて下さい。（いくつでも構いません）
- a.身体に障害のある方：車椅子を使用されていない方（1.はい 2.いいえ）
- b.身体に障害のある方：車椅子を使用されている方（1.はい 2.いいえ）
- c.視覚に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- d.聴覚に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- e.知的に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- f.精神に障害のある方（1.はい 2.いいえ）
- g.その他（ ）
- ⑥ ④ではいと答えた施設においてどんなスポーツが可能なのかお伺いします。
 該当する項目に○をつけて下さい。（いくつでも構いません）
- 1.水泳 2.陸上競技 3.卓球 4.バレー 5.乗馬 6.射撃 7.バスケット 8.ボウリング
 9.サッカー 10.アーチェリー 11.ボクシング 12.ダンス 13.エアロビクス 14.テニス
 15.武術 16.自転車 17.筋力トレーニング 18.スキー 19.マリンスポーツ
 20.その他（ ）

- ⑦ ④でいいえと答えられた施設で今後障害のある方のスポーツ施設利用について受け入れる可能性があるのかをお伺いします。
1. はい 2. いいえ 3. 検討中
- ⑧ 貴施設の設備についてお伺いします。障害を持って車椅子を使用している方が貴施設を利用すると考えた場合該当する項目に○をつけて下さい。
- a. 玄関が車椅子に対応できる程度広い。(1. はい 2. いいえ)
- b. 玄関にスロープ設置されている。(1. はい 2. いいえ)
- c. トイレなどの段差が解消している。(1. はい 2. いいえ)
- d. トイレを車椅子で利用できる。(1. はい 2. いいえ)
- e. 戸やドア幅が広い。(1. はい 2. いいえ)
- f. 廊下の幅が広い。(1. はい 2. いいえ)
- g. 玄関・廊下などに手すりが設置されている。(1. はい 2. いいえ)
- h. 障害者が利用できるスポーツ器具が十分設置されている。(1. はい 2. いいえ)
- ⑨ 貴施設では65歳以上の方が利用されていますか？
1. はい 2. いいえ
- ⑩ 貴施設は障害者のリハビリテーションを目的とした施設として利用できますか？
1. はい 2. いいえ

(資料 2)



Fig 1 障害者の受け入れ拒否

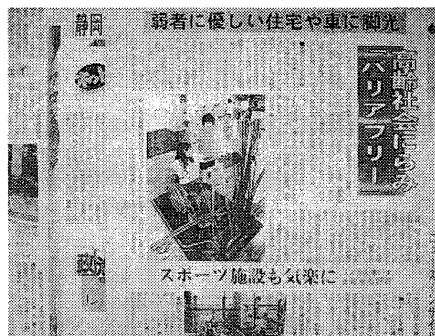


Fig 2 施設のバリアフリー化



Fig 3 生涯スポーツ

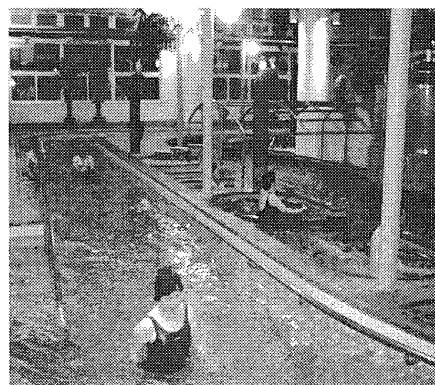


Fig 4 トレーニング風景